

関東から 移住



商店街でつながる 誰かの応援が誰かの一步に

関東から移住し、商店街にある絵本のお店をオープンしたまるのさん。まるのさんのお店では、本を売るだけでなく、さまざまな人が企画したイベントが開かれています。移住した直後は応援される側だったまるのさんも、今ではイベントを手伝ったり、お店を貸したりする側になりました。商店街の人との関わりも、日常のあいさつから少しずつ広がっていきました。「頑張れ」と言葉で応援するだけでなく、人を紹介してくれたり、荷物を運んでくれたり。自然と手を貸してくれる人が多いと感じているそうです。

「こんなことやってみたい」からのスタート

商店街では、「ちょっとのぞいてみようかな」といった気持ちで足を運んだことがきっかけで、人とのつながりや新しい取り組みが少しずつ広がっています。イベントを通じて知り合った人同士が仲良くなり、新しい活動につながることもあるそうです。

イベントの多くは、「こんなことやってみたい」という声から始まり、^{くち}コミやSNSなどを通じて自然と人が集まり、一緒に場をつくっていきます。4年間で200回以上開催されたイベントは、読書会やボードゲーム会、50人が集まる音楽ライブなど規模も内容もさまざまですが、まずは始めてみるのが、特別ではなく日常の中にあります。



商店街がパッと明るく

平凡堂印房 高橋さん

まるのさんが来られてから、商店街を歩く若い人やファミリーを見かけることが増えました。イベントをきっかけに、店同士の交流も生まれています。「何かをやりたいという人を応援したい」という思いを持つ人たちが、商店街でつながってきていることを実感しています。



庭のある暮らしで子どもがのびのびと

東京から三条市に移住体験をされた後に移住した山口さんご家族。以前はマンション暮らしだったので、隣人に気を遣い、お子さんに「静かにして!」「走り回らないで!」と注意し続ける毎日だったそうです。公園でも禁止事項が多く、子どもたちがのびのび遊べる場所が限られていましたが、移住後の暮らしでは念願だった庭があり、夏には家庭用プールで遊び、花火を楽しむこともできました。畑で、大根やトウモロコシ、小松菜などの栽培にも挑戦されています。



東京から
三条市に
移住体験後
移住

ご近所との程よい距離感

「子どもたちが近所の人に自分から話しかけていくんです。親である私たちも自然と仲良くなれるんですね。近所の農家さんから野菜をもらったこともありました。」と話す山口さん。子どもたちの存在が地域との距離を縮めるきっかけになっています。



移住定住支援サイト



三条で暮らす。
(三条市公式)

オーダーメイドで移住体験も

県外在住の方を対象に住まい探しや子育て環境の体験、自然体験など、ご要望を聞きながら、移住体験をプロデュースします。交通費・宿泊費の支援もあります。

特集

「やってみたい」が 形になるまち



～移住者から見た三条市の魅力～



三条市のどこかで、誰かの新しい一步が動き出しています。誰かがやりたいことや大切にしたいことを、ほかの誰かとの関わりの中で形にしていける。暮らしの中で人とのつながりが広がったり、理解が深まったり、三条市ならではの魅力が生まれています。このまちに移住した人が感じる三条市の魅力とは? 移住者の視点は、わたしたち三条市民にとっても新たな気づきとなります。三条市に移住して、それぞれの一步を踏み出した人たちにお話を伺いました。

地域経営課

☎34-5646



東京から
移住

不便そうな日常の営みも、 人とつながるきっかけに

東京都から移住し、地域おこし協力隊を経て、ビャンビャン麵専門店をオープンした山口さん。降雪期はアパートの住人同士で声を掛け合いながら雪かきをすることが会話のきっかけになったそうです。雪かきが楽しくて仕方ないと話す山口さん。以前住んでいた都内では、隣近所との関わりが少なかったそうですが、三条市での生活では、少しずつ人との距離が近くなってきています。

「なんとかしなきゃ」が共有

三条市でお店を始めた山口さんにとって印象的だったのは、「頑張っているね」と自然に声を掛けてもらえること。正月にお店を開けていたときも「やってるね」「応援しているよ」と言葉を掛けてもらったそうです。このまちには、新しいことを始める人を特別視するのではなく、自然と応援する空気がある。山口さんは、三条の人たちが「まちを何とかしたい」という思いを共有しているからではないかと感じたようです。

なぜ三条市では、暮らしや挑戦が形になりやすいのか

三条市では、自分のやりたいことを仕事や暮らしの中で形にしていける人が少なくありません。

その背景には、このまちならではの産業や人の関係性があります。市内では、就業者のうち事業を営む人の割合が比較的高く、起業や副業といった働き方が身近にあります。新しいことに挑戦することが特別なものではなく、日常の延長にある環境です。

また、中小規模の事業者が多く、人と人との距離が近いことから、「やってみようと思ったこと」が周囲の協力の中で形になりやすい土壌があります。

こうした環境が、それぞれの暮らしや挑戦を支えています。

